

大地震が発生した場合、災害拠点病院では直後に院内の安全確認や入院患者の対応を行い、その後は被災地から運ばれる患者のトリアージや治療を行わなければならない。これらの対応を迅速に行うためには、平常時からの備えと災害対応の訓練を行う必要がある。本研究では災害拠点病院の一つである東京大学医学部附属病院を対象とした防災マニュアルシステムのプロトタイプを開発し、災害時に行うべき災害対応業務の時系列的流れや、関連部署で行われている災害対応業務の流れの理解の促進を図った。

本システムにより防災マニュアルの記載内容が主体や経過時間などの視点から簡単に閲覧できるだけでなく、主体ごとの防災業務の違いや偏り、部署間相互の業務推移を視覚的に分かりやすく分析したり、確認することができるようになった。また、平常時に本システム上でグラフを確認することで、関係部署の連携状況の把握が可能となった。

### 【防災マニュアルシステム開発の流れ】

#### ① 東大病院の防災訓練計画の内容をデータベース化

**防災マニュアルのDB化**

業務がいつ始まり、いつ終わるかを記入している

看護師や医師も通常業務では役割が与えられているのと同じ

組織が活動する場所 組織の中の主体

業務の記載内容

記載内容については、アクションつを1記載数とするようしている

ガントチャート

業務の継続状況を表している。またこれを基本にグラフを描いて分析した

#### ② 東大病院にて実施された防災訓練を撮影・分析

**防災訓練の内容**

開催日時・平成18年9月8日 14時～

参加人数・医療関係者 約320名

本郷消防署 1数名

被害者役 39名

東大関係者 13名

被害・地震規模 M7、震度6強

建物被害 入院棟A8階の壁に亀裂

入院棟A6階で火災発生

設備関係 被害なし

**訓練の流れ**

**前半**

- 病院内: 病棟の安全確認と避難、災害対策本部の設置
- 病院外: 救急隊による患者のトリアージ

**後半**

- 外来患者のトリアージと治療
- 情報収集
- 救急隊による患者の搬送

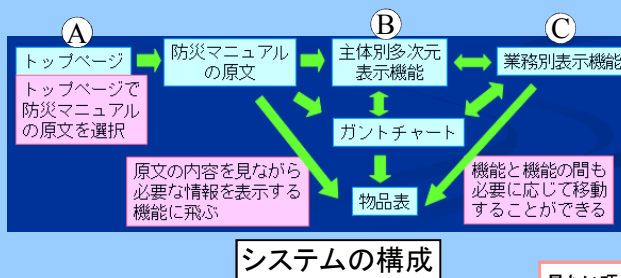
記載内容を組織・主体・業務内容ごとに整理

**防災マニュアルを検証**

- 医師と看護師について
- 外来リーダー医師、看護師について
- 時間軸について
- 管理課職員について

トリアージの判定ミスや連絡手段が使用不能になる混乱、役割分担が明確でないなどの問題点が指摘された。

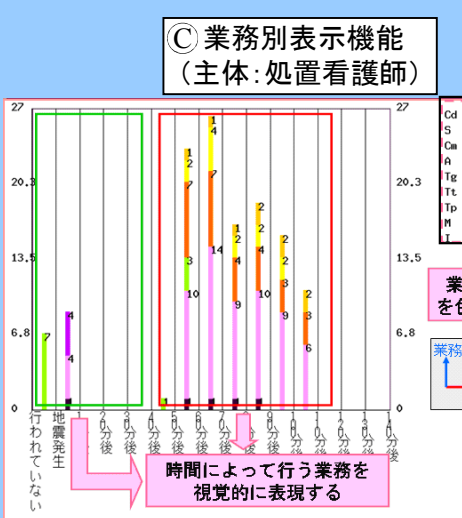
### 【分析システムの作成】



#### ① グラフ表示のトップページ

まずマニュアルの内容を確認 必要な情報の所得

災害対応レベル	対応内容	作業場所	作業時間	準備する物品
レベル-1	① 被災患者受入に備え、空ベッド数、入院可能患者を把握しておく。	地区	グラフ表示	必需品
	② 災害対策本部(臨時を含む)の要請により被災患者を受け入れる。	地区	グラフ表示	必需品
	③ 被害があれば、病棟チェックリストへ記入し、災害対策本部へ報告する。	地区	グラフ表示	必需品
レベル-2	① 患者・職員の救出、安全確保と誘導を最優先する	地区	グラフ表示	必需品
	② 患者の安全確保	地区	グラフ表示	必需品
	③ 二次災害を予防する。	地区	グラフ表示	必需品
	④ 災害対策本部の指示または各病棟の判断により避難誘導を行う。	地区	グラフ表示	必需品



見たい項目を選択

以下のボックスの見たい項目にチェックを入れてください

X軸

主体

- 処置看護師
- 医師
- 事務員
- 事務課長
- 医療情報部職員
- 外来リーダー医師
- 外来リーダー看護師
- 会計担当
- 検査科職員
- 検査部長
- 管理課職員
- 管理課長
- 放射線科職員
- 放射線科部長
- 病院長
- 副院長
- ベッド管理職員
- 放射線科科長
- 放射線科科職員
- 病棟リーダー看護師
- 病棟リーダー医師

施設

